

私たちは、平成23年にこの上島町にやってきました。地域のこと、右も左もわからないなかで、多くのみなさんに助けていただきながら、それぞれの活動を行ってきました。

「地域おこし」といっても、いろんな捉え方があります。私にとっては、「地域の人がこの地で暮らすことに誇りを持っていること」なのです。そういう地域が魅力的だと思うし、そういう地域には魅力的な人がやってくると思うし、魅力的なものが生まれるように思うからです。

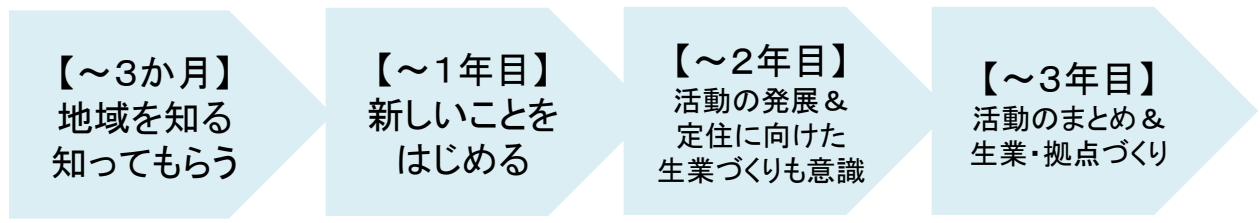
協力隊のシゴトは、自分で創りだすもの。創りだすといっても、大切なのは、自分が何をしたいかではなくて、地域に何が必要か、誰に必要とされているかなんです。もちろん、自分のしたいことというのも入ってはきますが、自分だけで完遂する協力隊のシゴトはないはず。尊敬する協力隊の中には、自分が引っ張っていくタイプの方もいるし、黒子タイプの方もいるけれど、「主役は地域」ということをみんな大切にしているように思います。

そんな働き方、生き方をしたいという仲間が来てくれたらうれしいです。ちなみに、田舎はスローライフだというのは嘘です。田舎はめちゃくちゃ忙しいです。オンオフありません。でも、お金に換えられない豊かさがゴロゴロしてますよ。私たちもサポートします。まずは一度、島へいらしてください！（藤巻）

先輩協力隊から メッセージ



協力隊3年間ってこんな感じでした ※一例



いきなり新しいことをするのではなく、まずは地域を知り、自分を知ってもらうことに時間を使ってください。

地域のニーズをくみ上げ、協力者を見つけ、活動を展開させていきます。活動が、活動を広げ、様々なつながりを生んでいきます。

徐々に、定住のための生業づくりも意識して必要なスキルを身に着けます。

自分が始めた活動をこれからどうしていくのか、まとめに入ります。定住のための住宅整備や起業の取り組みに使う時間が増えていきます。

第1期隊員の活動内容

大井 十和子(大阪出身・大阪から移住)
農家さんの手伝いを通じ、柑橘栽培のいろはを学ぶ。町のイベント、特産品販売などの支援。協力隊を2年務め、独立。新米柑橘農家として奮闘中。

藤巻 光加(山梨出身・東京から移住)
上島の人の魅力を伝えるWEBマガジンの制作、手づくりのものの魅力を伝える「てしごと市」の企画運営、高井神島の休校中の学校での子どもアートキャンプの実施、自閉症の子どもたちの作品展、港の読書スペース設置など、子どもや若者に重きを置いた地域づくり活動を行っている。平成26年9月で任期満了。自然農をベースとした菜園とその野菜をつかった食堂を開業。